

学会参加報告書

R21-069 保城くるみ

学会名：日本薬学会第144年会

日時 2024年3月29日~31日

1. 参加した目的

私が本学会へ参加した目的は、普段勉強している放射線技術学とは異なる薬学という分野においてどのように医療に活用されているのか、自身の知識の幅を広げたいと思ったからだ。また、4回生となり就職活動が本格化する前に、病院だけでなく企業にも目を向け、将来自分がどのように医療に貢献できるのかを考えるきっかけとして、学会という大きなイベントに参加することで様々なアイデアやインスピレーションを得ることができると思ったからだ。

2. 学会会場における様子（発表や展示会等）

会場は自身が想像していたものよりもずっと広く、学生から研究者、企業の営業部門まで男女問わず様々な方が参加されていると感じた。また、会場はポスター発表のブースだけでなく、企業の展示会ブースや病院などの就職相談ブース、発表者・参加者の休憩ブースなどがあり、別会場では大きなホールでの発表も行われていた。ポスター発表では、大学の先生方をはじめ、企業の研究部門の方や薬剤師、薬学部に所属している学生のみならず工学系の学部にも所属している学生など、発表者の職種が多様であり、あらゆる分野に薬学が関係していると実感した。企業の展示会では、研究者に向けたものや臨床で活躍する薬剤師に向けたものなど、最新機器が展示され目を奪われた。気になる企業のブースに話を聞きに伺うと、展示品についてどの方も非常に熱心に説明してくださり、企業の皆さんの熱い思いが伝わった。

3. 今回の学会に参加して得られたこと（今後活かしていきたいことなど）

普段はあまり勉強することがない薬学分野において、医療にどのように貢献されているのか最新の知識を得ることができた。薬学は医療だけでなく化粧品や工学的分野など幅広く活用されていることを実感した。発表者の方々は、身振り手振りを交えて研究内容を説明してくださり、研究に対する熱心さが伝わった。また、発表後は意見やフィードバックが得られることがとても大きいと感じた。今後、様々な議論の場においては相手方のためにも、積極的に質問や意見を伝えることが大切だと思った。またもし自身が発表する機会があれば、第三者の貴重な意見を大切に、新たな視点で考えるきっかけに活用していきたいと感じた。

4. 学会参加の感想

私の中で学会は、最新の研究に関する発表のみ行うといったイメージだったため、発表だけでなく様々なイベントが開催されていることに驚いた。学会は、知識の向上だけでなく様々な分野の方々との関係の構築や、自身のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など社会人として必要な力の向上にも繋がる場だと実感した。また、普段の講義だけでは得ることのできない新しい知識や最先端の技術を目の当たりにし、自身の知っている世界の狭さを実感した。講義や教科書から学ぶだけでなく、実際に自身の目であらゆるものを見て学び、またたくさんの方々から話を聞くことで自身の知識の幅をより広げていきたいと思った。今回は薬学会の参加であったが、機会があれば放射線学会や他の学会にも積極的に参加し、自身の知識の向上に努めたい。